

## 主体的に学習に取り組む態度（自分で学ぶ力）

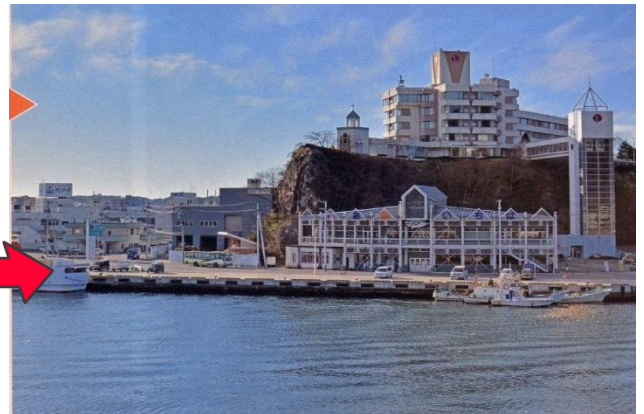
休校期間が長引き、あれもこれも「教えないといけない」という気持ちが強くなっているのではないのでしょうか。どうやって「教える」のではなく、どうやって「児童が学んでいくのか」を改めて意識して授業づくりに取り組んでいきましょう。

今回は、「自分で学ぶ力」を評価するために、どこで記録に残すか、どうやって記録に残すか、どうやって見取るか、実践したことで見えたポイントを、自分の失敗も含めてお伝えすることで、少しでも皆さんの授業づくりのヒントになればと思います。

単元名：震災復興の願いを実現する政治（6年生社会科）



写真① 震災直後の気仙沼の様子



写真② 復興後の気仙沼の様子

T：（まず写真①を見せる）何の写真か分かる？

C：地震。津波。東日本大震災。

T：何がここに写ってる？

C：がれき。壊れたものがいっぱいある。船がある。家がつかつとる。

T：もともとどんな場所だと思う？

C：海？いや家がいっぱい建っている場所？

T：ここね。今はこうなってるんだよ。（写真②を見せる）

C：えーっ。きれい。海じゃん。

T：（写真を切り替えながら）こうだった場所が、今はこうなってるの。どう思った？

C：めっちゃきれいになつとる。がれきとか全部運んである。

T：ほんまよね。これ見てさ、どんなこと調べてみたくなった。

C：海とか、建物とかどうやって変化したか。どうやって直したか。元通りにどうやってしたか・・・

T：これって意味が違うのはどれ？

C：いや、全部一緒。どうやって元通りに戻したかって意味。

T：じゃあ、それを単元の問いとして黒板に書くけどみんなOK？そしたら単元の問い、全員ノートに書こう。

子ども達とこんなやり取りをしながら、まずはクラスの学びを方向付ける単元の問いを作りました。導入のポイントは、「情報過多」「資料過多」になりすぎないことかなと思います。聞く時間や整理しないといけない情報が少ない方が、問いを子どもたちに届けられます。またシンプルで、広く大きな問いにすることで、この後の子どもたちが考える発想の幅を広げることができます。

この時間の学習は

①社会的事象と出会う ⇒ ②単元を方向付ける問いを作成する ⇒ ③現時点での予想をする ⇒④予想が本当かどうか確かめるために何を調べればいいか考える ⇒ ⑤④をもとに学習計画を作成する

という手順で進めていきました。

### 授業の実際

#### ③現時点での予想

「自衛隊の出動」「町の人やボランティアの活躍」「重機を使った」「世界中から物や人を集めた」「政府からのお金」「税金を使った」といった予想が出てきました。

#### ④予想が本当かどうか調べる方法を考える

- ・自衛隊やボランティアがどんな活動をしていたか
- ・がれきを誰がどこへどうやって運んだのか
- ・募金や寄付がどれくらい集まったのか
- ・政府のお金は何に使われていたのか
- ・どれくらいのお金が使われたか

といったことが出され、「人」と「お金」について調べるということになっていきました。

#### ⑤学習計画作成の場面

T：(①の写真を見せながら) この中で人ができそうなことってどんなことがある？

C：がれきをどかす

T：どうやって

C：船にのってそこまで行って… ボートでそこまでいく 重機を使う など

T：すぐに人ができることって

C：意外と少ない。じゃあ「お金からじゃな」

と言って、最初にお金の使われ方を、次に人の動きを調べていくことになりました。

### Nさんのノート (Xは私の失敗)

X自分が見通した予想なのか、黒板の意見を書き写しただけなのが見取れない。

X自分の予想をもとに見出したことなのか、前に書いた予想をもとに見出したのが見取れない。

◎黒板に出てきた意見を分けて書いているので、自分と友達の思考の区別ができる。

Xこれを調べる方法が書かれていないので、自分で学びをどう進めていけばいいのか分からない子への支援が不十分。

導入場面で「自分で学ぶ力」や「主体性」を見取るために記録を取るときのポイント

- 自分の考えと友達の考えは分けて書かないと、その子の本当の力が見取れない。(個々の考えを大事にするという意味で、書き写す必要があるかは私にも分かりませんが…)
- 予想が広がらないと、調べることが出てこないのて、予想はみんなで広げて調べることや調べる方法を個々に考えるのも手段の1つ。
- 「予想がたつ」「何を調べればいいのか見えている」ということは課題が子どもにちゃんと届いている+自分で学びを進めていける力が備わっていると考えられる。